

光が誘導 命の道確認

「津波34社」の高知・黒潮町

夜間想定し避難訓練

南海トラフ巨大地震で最大34社の津波被害が予測されている高知県黒潮町で20日夜、夜間の津波襲来を想定した避難誘導実験が行われ、住民約100人が、小雨が降る暗闇の中、ため込んだ光を発光する「蓄光材」の誘導標識を手掛かりに、階段で高台に避難した。

実験は、土木学会で災害時の避難誘導を研究する小委員会などが、夜や停電時に階段を上る際の必要な設備を確認するため、同町の佐賀漁港近くで行った。

計53段の避難階段を
①手すりや一段一段の高さ、階段の角の位置を蓄光材で示したゾーン②一段ごとの高さや角の位置だけを示すゾーン③誘導物を何も設置しないゾーンに3



夜間の津波襲来を想定した避難誘導実験で、発光する誘導標識を設置した階段で高台に向かう住民ら

—20日夜、高知県黒潮町

分割し、使いやすさなどアンケートもした。今回使用の蓄光材は、日没後12時間経過した後も光を放出し続ける素材。都市防災工学が専門の大野春雄委員長は「高台に避難するのための階段は命の道。暗闇の中で必要となる機能を検討することが重要だ」と話した。